

消防団長紹介

泉佐野市消防団 団長 重里 恒人

泉佐野市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、背後に一部が金剛生駒紀泉国定公園に指定された和泉山脈を擁し、美しい山河、緑あふれる恵まれた自然環境にあります。商・工・農・漁業がそれぞれバランスよく栄えてきましたが、関西国際空港の開港などに伴う人口の増加とともに、商業・サービス業が盛んになっています。名前の由来は、中世以来の村名「佐野」に旧国名和泉を冠したもので、伝承では「狭い原野」ということから「狭野」というようになり、それが転じて「佐野」とよばれるようになったといわれています。

昭和23年4月1日、佐野町の市制施行により泉佐野市が誕生し、昭和29年、南中通村、日根野村、長滝村、上之郷村、大土村の5カ村が合併し、現在の市域が形成されています。平成6年9月に開港した関西国際空港によるインパクトを最大限に活用し、世界と日本を結ぶ玄関都市として、21世紀にふさわしい国際都市をめざしてまちづくりに取り組んでいます。

泉佐野市消防団は、昭和29年総理府告示第365号、大阪府告示第178号をもって、当時、泉南郡南中通村、日根野村、長滝村、上之郷村、大土村の5村が泉佐野市と合併した際に、各村に設置されていた消防団を統合して泉佐野市消防団を結成し各村の消防団を分団と位置付け現在に至るものですが、分団車庫には1815年（文化12年）に鑄造された半鐘を今でも大切に保管しており、歴史と伝統を守り続けています。そして、近年は地域防災力の強化を目的に平成27年4月1日に女性消防団、平成30年4月1日に機能別市役所消防団を創設し、令和5年4月1日現在、条例定数170名（男性130名・女性20名・機能別20名）をもって地域の安全安心の確保に努めています。

私は、昭和61年4月1日に入団し、平成27年4月1日から副団長を8年間勤め、令和5年4月1日から団長に就任しています。平成26年3月23日には大阪府知事表彰（消防勤続功労章）、平成29年3月8日には消防庁長官表彰（消防勤続功労章）、平成30年4月29日には藍綬褒章を受章しています。

消防団活動において一番記憶に残っている出来事は、平成3年に発生した泉佐野市内の工場約1,200㎡の爆発・火災事故です。本市初の化学工場火災であり、まだ入団して5年ほどの頃にいつ爆発が起こるかという恐怖もありましたが、これ以上の被害を増やしたくないという思いが強く、長時間にわたり放水を行い、必死に消火活動をした記憶が今でも残っています。

この現場では消防団としての責任感等を実感した現場ということもあり、その後の消防団活動に対する使命感や意欲に影響をもたらしたと感じています。消防団長としてこのような経験を次世代に引き継ぎながら、このような大災害が起きないように地域の皆様と連携をとり、今後の災害にも備えていきます。

泉佐野市消防団の活動は、「自分たちのまちは自分たちで守る！」を合言葉に4月の辞令交付式及び合同規律訓練から始まり、毎月1回の各分団訓練、泉佐野市大防災訓練、消防署と合同で実施する消防出初め式訓練、文化財防火デー消防訓練、林野火災総合訓練など年間約30回の消防訓練のほか、女性消防団員を中心に応急手当普及員の資格を取得させ、各町会等の自主防災組織が行う地域防災訓練（草の根防災訓練）に年間を通じて参加し、応急手当の普及や火災予防広報を実施

しています。火災時には、指令センター（消防本部）からの召集サイレン及び一斉メールにより出動し、消防団管轄エリアにおける現場に際しては消防本部より先に放水することを基本目標とするほか、震度4以上の地震で管内巡回を実施し、また、台風の接近等に伴う気象警報時は自主的に詰所に参集待機し巡回を実施するなど、高い意識と郷土愛をもって地域に密着した活動を積極的に続けています。